

e-dream-s 通信

No. 62 発行：2005年12月11日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. @glance の今後 辻 荘一 p.2
2. 今、メンテナンスが基本。 井川 好二 p.4
3. 7歳 これからどんな子に育てます？ 中川房代 p.8
4. "リアルな威力" パート2 私の場合 山田昌子 p.10
5. チョンゲチョンの新たな流れ 塚本美紀 p.13
6. お知らせ p.16



インド・コルカタ（カルカッタ） ホテルの聖歌隊

© e-dream-s

オベロイ・グランドホテルにて。クリスマスシーズンのため、ロビーで聖歌を歌っていた。
(2004.12…井川好二)

@aglance の今後

辻 莊一

現在@aglance に収録されている画像数は 8,830 枚 (2005 年 12 月 11 日現在)、間もなく 10,000 枚になる。教育目的のサイトとしては世界最高。google でも Yahoo!でも「教育写真」で検索すればトップに表示される定番サイトとなっている。イー・ドリームズの看板事業である。ただその運営には毎年数 10 万円の経費がかかっている。この費用をどう捻出するかが毎年理事会での議題になっている。

さて、最近@aglance の写真の使用許可を求めるメールを連続して受け取った。概ね次の様な内容だ。

はじめまして。

△△△教材開発研究室に勤めております〇〇〇と申します。

今回△△△に来ている生徒さまにのみ販売されるコースブックに含まれる副教材及びワークブックにお写真を使わせていただけないかと思い連絡させていただきました。教育目的で使用するという点では御サイトの運営方針に沿っていると思うのですが、生徒さま用のコースブックとして販売される、という点では販売目的での使用、ということにも当たるかと思えます。

中略

お忙しいところ恐れ入りますがお返事をいただければと思います。よろしく願いいたします。

△△△教材開発研究室〇〇〇

教育目的ではあるが商用というわけである。これまで、同様の依頼があった場合は 2 種類の対応をしてきた。一つは断る、もうひとつは無料で使用許可、である。ごく初期の頃は 1 枚いくらかで契約しようとしたこともあったがその手続きが煩雑なうえに税金等のことも考えなければならず、最近は販売を諦めて上記 2 種類の対応となっている。

今回は、方針を変更して依頼している会社にイー・ドリームズの団体会員になってもらうことを条件に、写真に使用を許可することにした。著作権をイー・ドリームズが持っていない場合もあるのでどの写真を使うかは事前に連絡してもらうが使用枚数については制限がない。使用する側にとっては一度の手続きと少額の出費で (入会金: 10000 円 年会費: 3000 円) で 8000 枚以上の画像を自由に検索して何枚でも画像が使えるし、提供する側にとっても手続きが簡単で会員としてサポートしてもらえる団体が増える訳で、どちらの側にとってもいい話だと思う。現在までのところ、写真の使用を通じて二つの会社が団体会員になってくれている。

教育目的使用は無料ということで運営してきたが、素人写真がほとんどとは言え、商業的

に使える写真も数多い。使いたい出版社も多いのではないかと、掲載画像の使用許可という条件で教育関係¹の出版社に積極的に働きかければ、案外かなりの出版社が団体会員になってくれるのではないかと考えている。もちろんそれは会費が入って運営が楽になるということでもあるし、多数の教育関係の出版社が会員になってくれることでイー・ドリームズの社会的信用が増すということでもある。

実は上に引用した会社の担当の方は、写真の提供まで申し出てくれている。会員数増加、資金獲得、画像提供でまさに一石二鳥ならぬ一石三鳥。今後同様の団体会員をどう増やしていくかを検討して行きたいと思う。団体会員獲得を自分が担当してやってみたいという会員の方は大歓迎である。

¹さらに写真が掲載された書籍が直接教育現場で使われるものではなくても、社会教育という観点から望ましい使い方をされるのであれば、もう少し間口を広げてもいいかもしれない。

今、メンテナンスが基本。

井川 好二

無口なUさんは、いつも飄々としている。終戦の年の生まれで、今年60歳である。オーディオ製品の修理が専門で、自宅にあるステレオの修理を時々お願いしている。

職人としてのUさんの腕前が、特にいいかどうかは解らないが、家まで気軽に来ていただけるし、口数は少ないが、お願いしたことには、いつも誠実に対応していただいているし、費用もリーズナブルで、私としてはその仕事ぶりに、充分満足しているのである。

民芸運動²の柳宗悦³は、日本を「手仕事の国⁴」と呼んで、「手を使っての仕事」の大切さを、「機械を使っての仕事」が主力を占める現代社会で、再認識することを提唱した。しかし、機械を使って作られたモノも、手入れや修理は、手仕事であり、そういうメンテナンスの重要性も、また、賞揚されてしかるべきと思われるのである。

それで、Uさんの話である。お子さんたちが、もうそれぞれに独立したUさんは、私の自宅から坂道を少し下ったところに建つ古い家に、ご夫婦で住んでいて、ご近所の誼と云う感じで、気楽にお願いしては、古いオーディオ製品の修理に来ていただけるのは、誠にありがたい。日頃は、さる大手AVメーカーの顧客サービスを、請負する会社を経営されているのだが、休みの日には、自ら近所の家庭のオーディオを、半ば趣味のように修理してくださる。数少ない私の近所自慢のひとつである。

「このごろは、機械がどんどんコンピュータ化されて、私らで修理できる範囲が、少のうなってきましたわ」だから、古いオーディオを修理して、昔どおりに表情豊かな音を再現できるようにするのが、天職と思えるのだろう。「昔の機械かて、ちゃんと面倒見てあげたら、また、エエ音で鳴ります」メンテナンスにかける、Uさんの人生である。

しかし、いくらご近所だからと云っても、ステレオをそう再々修理と云うわけではなく、この前にお願ひしたのは、10年ほど前。アメリカ暮らしを終えて帰国し、またこの宝塚の

²民芸運動【みんげいうんどう】民衆(無名の作者)が日常生活の実用のために手仕事により製作する伝統的な器具・用品に、単純・健康・堅牢な独自の美があることを主張し、それを理想とする作品を創造しようという運動。柳宗悦(むねよし)が提唱(1922年刊「陶磁器の美」、27年刊「工芸の道」など)。浜田庄司・河井寛次郎・リーチ・芹沢#介・棟方志功らがこれに共鳴し、独特の作品を制作した。31年雑誌「工芸」を発刊、36年東京駒場に日本民芸館を開設。[岩波日本史辞典]

³やなぎ - むねよし【柳宗悦】民芸研究家・宗教哲学者。東京生れ。東大卒。雑誌「白樺」創刊に加わり、のち民芸運動を提唱。日本民芸館を設立。(1889～1961) [株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁴ 柳宗悦 (1946/2000) 「手仕事の日本」東京：小学館。

家に住みはじめた震災⁵後、しばらく放ったらかしにして埃をかぶっていたステレオのスピーカーの調子が悪く、直してもらった時であった。今度もそのスピーカーである。

家にいくつかあるステレオセットのうち、いつもUさんに修理をお願いするのは、私が大学を卒業して勤め出した年に、冬のボーナスをはたいて買ったもの。もう、30年以上前の話である。その時購入し、未だに現存するものは、Lux⁶のプリメインアンプ⁷、JBL⁸のスピーカー、山水⁹のチューナー。一緒に買ったレコードプレーヤーは、いつか壊れて処分してしまったが、カセットプレーヤーとCDプレーヤーを、その後買い足した。

比較的サイズの大きなスピーカーで、正直、置き場所に困ることが多かった。それで、10年前に帰国して、一旦修理をしたものの、その後裏庭の倉庫に仕舞い込んでいた。最近、家を改装し、ややスペースができたので、鳴らしてみたいと倉庫から出してみると、ウーファー¹⁰のコーン紙¹¹が長年の湿気にやられて、無惨にも破れていた。残念。

私は、日頃から「モノを大切に」と云う主義では決していないのだが、このJBLに関しては、たまたま初期投資が大きかったと云う記憶と、30年間の思い出の重さに、処分するには忍びなく、再びUさんに修理を頼むことにしたのである。

⁵はんしん - あわじ - だいしんさい【阪神淡路大震災】1995年1月17日の兵庫県南部地震による災害。兵庫・大阪・京都の1県2府が被災し、死者6千3百人、負傷者4万3千人、全半壊家屋20万9千。また、神戸市内で阪神高速道路の高架橋やビルが倒壊。第二次大戦後の日本で最大の災害となる。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁶1925年に創業され、80年の歴史を持つラックス株式会社は、情報化社会への変化に合わせて経営体制も新たにイーラックス株式会社と名称を変更しました。同時に、日本のオーディオ史とともに歩み続けてきた伝統的オーディオブランドLUXMANを受け継ぐために、「ラックスマン株式会社」は誕生しました。

<http://www.luxman.co.jp/company/index.html>

⁷◆アンプ(amp) [1991年版 AV] amplifier の略。増幅器。スピーカーを鳴らすための電力を作り出す電力増幅器を、メインアンプ(main amp)またはパワーアンプ(power amp)とよぶ。入力信号をコントロールしてメインアンプをドライブするのに必要な電圧に上げてやる電圧増幅器をプリアンプ(pre amp)またはコントロールアンプ(control amp)とよぶ。プリアンプとメインアンプを合わせてセパレートアンプ(separate amp)とよぶ。メインアンプとプリアンプを一体化したものをプリメインアンプ(pre-main amp)またはインテグレートアンプ(integrate amp)とよぶ。プリメインアンプとチューナーを一体化したものを、レシーバー(receiver)とよぶ。以上のアンプにDACを内蔵させたものもある。[現代用語の基礎知識 1991-2000]

⁸JBL/n. 【商標】JBL《米国JBL社製のスピーカー; 同社は1946年(前身は1927年)創業》.[James Barrow Lansing (1902 - 49) 創業者][株式会社研究社 リーダーズ+プラスV2]

⁹山水電気株式会社: 音響・映像・情報機器の製造販売。トランスメーカーからコンポーネントに展開し、特にステレオアンプ技術に定評。世界100ヶ国以上に輸出しSANSUIブランドを確立した。 <http://www.sansui-jpn.co.jp/profile/index.html>

¹⁰ウーファー【woofer】低音域再生用スピーカー。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹¹コーン【cone】円錐。拡声器で、音波を出す円錐形の振動板。同心円のひだをつけることもある。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

修理前にチェックしていただくと、ウーファーの破損だけでなく、片方のツイーター¹²がやや接触不良。他にコード接続用のターミナルの交換などが必要とのこと。交換部品の実費だけで、5万円。

金額は少々痛いですが、お願いすることにした。同レベルの新しいスピーカーを買うより、むしろ遥かに安い。10年前にせつかく U さんに修理してもらったのに、仕事の忙しさから、ろくに鳴らしもしないで、家の手狭さから、倉庫に入れっぱなしにした責任もある。このスピーカーで新たに聞いてみたい最近好きになった曲もあるし、もう一度味わってみたい昔の曲もある。

3週間たった今朝の10時。Uさんが、修理の終わったJBLのスピーカーを持ってきてくれた。紺色のウインドブレーカーを着て、黒いミニバンから、結構重いスピーカーを、一階の応接間へひよいひよいと運び、白い壁際に二本を並べて置く。

「ボックスの木が乾燥してましたので、ステン¹³を塗っておきました」銀色の道具箱から、工具を取り出し、慣れた手つきでコードをラックスのアンプに繋いでいく。新しいコーン紙が張られたJBLは、新品のように見える。

「修理確認のため音を出してみますので、CDを何かお借りできますか？」ときかれて、何にしようかと考えた。

このスピーカーで、このアンプで、音楽を聴くのは、本当に久しぶりである。昔このセットでよく聴いた Jimi Hendrix¹⁴のギター、それとも、最近車で通勤時によくかける Bill Evans¹⁵のピアノ？

いや、今日はビートルズ。ニューヨークの自宅マンション前で射殺されて、昨日(12/8)25周年を迎えた John Lennon¹⁶の供養に、ビートルズのアルバムをかけることにしよう。

¹²ツイーター【tweeter】高音域再生用スピーカー。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹³オイル - ステイン【oil stain】油に濃い鉄さび色の染料や顔料を溶かした塗料。木製の外壁・塀・柱・床などの着色や防汚に用いる。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

¹⁴ヘンドリックス Jimi Hendrix (1942 - 70) 《米国の黒人ロックギタリスト・シンガー・ソングライター；天才的ロックギタリストとして今なお彼の奏法はギタリストたちに影響を与え続けている；シングルヒット曲 `Hey Joe' (ヘイ ジョー, 1967), `Purple Haze' (紫のけむり, 1967)》[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

¹⁵ Bill Evans (1929 - 80) 《米国のジャズピアニスト；清冽な音色とリリカルで知性的な演奏で名声を得、1960 - 70年代のピアニストに大きな影響を及ぼした；Miles Davis の名盤 Kind of Blue (1959) への参加、天才ベース奏者 Scott LaFaro, ドラム奏者 Paul Motian とのトリオでの活動 (1959 - 61) などが特に名高い》[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

¹⁶ Len・non /n. レノン (1) John (Winston) Lennon (1940 - 80) 《英国のロックシンガー・ソングライター・ギタリストで、Beatles の中心メンバー；1969年に前衛芸術家 Yoko Ono と結婚して芸術面で強い影響をうけた；Plastic Ono Band 名義のシングル `Give Peace A Chance' (1969) では世界平和を訴えた；Beatles 解散後は米国で活動し、1976年永住権を獲得；1980

Rubber Soul¹⁷。高校時代によく聞いた。

He's a real nowhere man
Sitting in his nowhere land
Making all his nowhere plans for nobody

Doesn't have a point of view
knows not where he's going to
Isn't he a bit like you and me?
NOWHERE MAN (Lennon/McCartney)¹⁸

昔よく聞いていた頃より、深い音がしているように思える。ずっと広がりがあるように感じられる。刺々しさが熟れて、円やかに聞こえるのは、蓋し、錯覚ではない。私の感受性が、毫碌したと云うことでも、ないように思う。すなわち、メンテナンスの力。Uさん、ありがとう。ちなみに、メンテナンスが必要なのは、スピーカーだけではないのである。
(Saturday, December 10, 2005)

年アルバム *Double Fantasy* を発表するが同年 12 月 8 日熱狂的なファン Mark Chapman によって New York の自宅 *Dakota Apartments* 前で射殺された; 代表曲 `Imagine' (1971), `Just Like Starting Over' (1980)》[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

¹⁷ Rubber Soul / n. 『ラバー・ソウル』 《Beatles の代表的アルバム (1965); `Nowhere Man', `Norwegian Wood', `Girl' などを収録》.[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

¹⁸ Nowhere Man/ n. 「一人ぼっちのあいつ」《Beatles のヒット曲 (1966); John Lennon と Paul McCartney 作詞作曲》.[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

7歳 これからどんな子に育てます？

中川房代

11月初めに祖母が亡くなり、久々に静岡の実家に帰った。私は教師をしているので、生徒の夏休みや冬休みといった長期休暇には、ホントは帰り（行き）易いはずなのだが、海外に行っていたり、何か仕事があったり、面倒だったり、あまり親に顔を見せに行っていない。実家には弟夫婦が同居しているし、幸い両親とも元気だからというのもあるが…。でも、実家に帰ると楽しみなことがある。姪に会うことだ。今3歳だが、よく喋り、よく笑い、よく歩く。とても賢くて、とてもかわいい。先日甥も生まれ、家族が増えてなかなか賑やかになっているそうだ。彼らはどんな子に育てていくのかな？と、楽しみだ。

今年で7歳になったのは日本のNPO法人制度。12月1日は、NPO法人の誕生日。

認証された全国のNPO法人数¹⁹（内閣府発表）は10月末で24,000団体を越えた。今までかなりのスピードで増加しつつあったNPO法人であるが、2004年からは月平均の認証法人数が減少傾向にあるという。既に解散してしまった法人も累計で543団体ある。実質活動をしていない休眠法人や、決められた書類を提出しないなどの理由で行政処分を受けて認証が取り消しになった団体もある。来年にはNPO法のもとになっている民法の大幅な改正も予定されており、近い将来には、法人の区分が変わり「NPO法人」というカテゴリーがなくなるかもしれないとも言われている。

さて、今号は、NPOの解散について書こうと思う。ちょっとシビアな話題ではあるが、これも私たちがe-dream-sについて考える材料になればと思う。2つ紹介する。

1つは、こんな新聞記事²⁰だ。（ゴシック部分は記事の抜粋）

NPO法人の解散が急増している。…その約半数はここ1年に集中している。財政的に行き詰まり、役割を全うできず自主解散に至るケースがほとんど。…NPO法人への期待は高まっているが、活動を支える仕組みはまだ十分とはいえない。

（解散したNPO法人の代表の話）「解散は財政的な理由」。…これ以上、綱渡りの組織運営は無理と総会で解散を決議した。「誤算は寄付金が集まらなかったこと。…残念です。」…（他の法人の代表の話）「活動資金の集め方や後継者の育成法など経営ノウハウが足りなかった」と振り返る。

東京都が今年3月に発表した「特定非営利活動法人ニーズ把握調査」によると、活動上の問題点（複数回答）で「法人運営上の財政的な問題」をあげる団体がもっとも多く、73.3%を占める。

¹⁹ 内閣府ホームページより <http://www.NPO-homepage.go.jp/data/pref.html>

²⁰ 日本経済新聞 2005年9月8日（木）20面「NPO法人の解散急増」より

もう1つは、10月29日に発表された内閣府の「NPO（民間非営利団体）に関する世論調査²¹」の結果だ。調査項目は、(1)NPOに関する周知度と期待、(2)NPO活動への参加実態及び意識、(3)NPOに関する情報提供の実態、(4)NPOなどに対する寄附、(5)NPO法人に対する信頼、(6)NPOの課題、(7)行政に対する要望、の7つ。

調査結果を見てみると、(1)のNPOの周知度で、NPOの活動については、8割が「大切」と評価しているが、(2)の参加実態では、過去5年間にNPO活動に「参加したことがある」のはわずかに7.2%で、参加しなかった理由は「きっかけ・機会がない」50.5%、「情報がない」29.6%、「時間がない」28.8%などとなっている（複数回答）。「NPO」という言葉を知っているかについては、「知っている（意味もわかる）」が39.7%、「意味はわからないが、見たり聞いたりしたことがある」が45.5%、「見たことも聞いたこともない」が11.9%となっている。年齢別では「知っている」と答えた割合が高かったのは50歳代。

(4)の寄附については、この1年間に何らかの寄附をしたことがある人は70.5%、金額は千円未満が45.8%と最も多かった。しかし、寄附先については、NPOに対する寄附者はたったの4.0%（複数回答）。また、NPOに寄附するとしたら、どのような点を重視して寄附先を選ぶかを聞いたところ、「寄附金の使いみちが明らかであること」をあげた人の割合が63.4%と最も高く、以下、「NPOの活動の目的や内容に賛同できること」41.1%、「活動を行うための業務・運営組織が十分に整っていること」17.9%、「社会一般の評価が高いこと」13.0%の順になっている（複数回答）。

(6)の課題については、今後、NPOの活動が一層活発になるためには、どのようなことが必要だと思うかの質問に、「NPO自身が市民に対して積極的に理解を求めていくこと」が半数近くを占めて46.3%、他には「行政がNPOの活動に必要な基盤づくりを充実させること」27.8%、「職場や学校などで、会社員や学生などが活動に参加する機運を高めること」22.7%、「NPOの活動を客観的に評価する仕組みを設けること」18.7%、「市民一人ひとりが積極的に活動へ参加すること」17.6%などであった。

NPOの社会での周知度の高まり、注目と期待、ニーズにどう応えるのか？が、それぞれのNPO法人に問われている。活動を継続・発展させていくにはどうしていけばいいのか？1月4日にe-dream-sの第21回理事会を開催する予定である。私たちが新年を迎える準備をしていきましょう。

帰りがけに、姪が言う。

「おおさかのおばちゃん、またきてね！」

言われてビックリしたけど、そうか、私は「大阪に住んでいる伯母ちゃん」なんだよね（オバチャンでもあるけど）、と、改めて自覚して「バイバーイ！」と手を振って大阪に向かった。

²¹ 内閣府「NPO（民間非営利団体）に関する世論調査」の結果は、

<http://www8.cao.go.jp/survey/h17/h17-npo/>

関連記事は、「シーズ」2005年のニュース から

http://www.npoweb.jp/news/news_info.php?article_id=2328

“リアルの威力”^{註1} パート2 私の場合

山田昌子

先月の e-dream-s 通信に北九州の塚本さんが”リアルの威力”という原稿を投稿されていましたが、覚えておられるでしょうか？私もこの11月末、同じような経験をしました。どうしても教室の中のコミュニケーションは疑似的なものになりがちですが、英語を使わなければ話ができない相手と、コミュニケーションをしたいと生徒が思うことがいかに大切か、そういう活動のある語学教育の効果を感じたエピソードを紹介させていただきたいと思います。

私の勤務校は京都府内の困難校のひとつですが、英語コミュニケーションコースというコースがあり（各学年にひとクラスずつ設置）、2学年になるとシンガポールへの海外研修旅行を行っています。今年度私は、その2学年英語コミュニケーションコースの担任・英語の教科担当をしています。英語の授業を利用し、海外研修旅行で訪問するシンガポールの学校の生徒とペアを組み、6月からeメール交流を行ってきました。まだ顔を見たことがなくどんな人かもわからないパートナー、文化も学校のシステムも英語の力も異なり、その上相手から返事が来ないと、我がクラスの生徒は「なんでこんなことせんならん」とやる気をなくし、なかなかeメール交流が進みません。「先生、返事全然来へんし、嫌な奴やと違うやろか」「英語むずいし、文作れへん」という言葉を何回聞いたことでしょう。

その生徒たちが11月末海外研修旅行で、シンガポールの YuHua Secondary School を訪れました。午前9時頃、自分のパートナーはどんな生徒かな・・・とドキドキしながら生徒たちはバスを降りました。その時期は YuHua Secondary School を含めシンガポールの多くの学校が長期休業中でした。が、校舎の前に約40名の生徒たちが2列に並び、私たちを拍手で迎えてくれました。その間を歩くと、ちょっと気恥ずかしいけれど、うれしい歓迎でした。体育館に案内され、海辺にあるようなプラスチックの椅子に座り、開会式が始まりました。両校の校長・代表生徒が挨拶し、YuHua Secondary School の代表の生徒が PowerPoint を使って学校の紹介をしました。生徒たちはまだ緊張状態です。その後、YuHua Secondary School の生徒たちが「全員で円を作って」と呼びかけ、我がクラスの生徒たちに”Hello, nice to meet you. What is your name?” と声をかけ、自分のパートナー探しを始めました。お互いまだ shy ではありましたが、やはり自分のペアを早くみつきたいという気持ちが強かったのでしょう。事前にeメールで写真を送付しあっていた生徒たちは素早く見つけ、すでに話をし始めていました。我がクラスの生徒は決して英語が上手いわけではありませんが、照れながら単語をつなげ一生懸命自己紹介をしているのが感じられました。初めて出会ったのにこんなに話そうと意欲的になるなんて、教室ではなかなか見られないことです。ペアと一緒に教えてもらったダンスを踊っている生徒たちの楽しそうな姿に、私は、塚本さんの”リアルの威力”という言葉思い出しました。

その後、我がクラスの生徒も、PowerPoint を使って全員で日本と学校の紹介をしました。その中で関西弁講座をした女子生徒の”Repeat after us.”の後、YuHua の生徒たちが「おおきに」「あかん」「なんでやねん」と大きい声で繰り返し、一層場がなごみました。その上元気な男子生徒たちのジェスチャーたっぷりのクラブ活動の紹介が終わると、笑い声と

共に拍手喝采。この頃からペアで着席をしていましたが、ふと気付くとプリゼン中なのに、何人かのペアが親しげに話し出していました。「会話がとぎれず、ずっと話している！しかも英語?!」私には大きな驚きでした。

我がクラスの生徒全員で、毎年体育祭で行う名物の城陽体操をやり終わると、またまた拍手喝采。生徒たちもちよっと照れくさそうに、でも満足げでした。その後、スポーツと料理の2グループに分かれ、スポーツグループは、バスケットボールとサッカーに汗を流し、料理グループはマレーのお菓子と日本のおにぎりのみそ汁を作り、互いに紹介しあいました。昼食時にはもうすっかり互いになごみ、ペアと一緒に配られた昼食を楽しみました。昼食後は、計画したわけでもないのに、腕ずもう日星対抗に燃える男子生徒たち、写真を何枚も撮り合う生徒たち、持ってきた雑誌を見たり折り紙を折ったりしながらワイワイガヤガヤ、笑い声が絶えませんでした。とはいえ、我がクラスの生徒たちは決してYuHuaの生徒たちの英語すべてがわかったとか、ペラペラ話せたとは言えません。でも、互いにわかりあおうという気持ちによって、お互いを近づけ、それが英語を聞こう、話そうという姿勢ができていったのだと思います。「リアル」だからこそ、英語を使うというコミュニケーションにとって一番大切なことができたのかもしれない。帰国後の感想の中で多くの生徒が、「私のつたない英語を、一生懸命聞こうとしてくれたのが、本当にうれしかった。だから自分も一生懸命話そうとした。」と述べています。民族舞踊を披露していただき、我がクラスの生徒たちも文化祭でやった英語の歌やSMAPの歌を歌い、午後4時すぎ、クライマックスのうちに学校をあとにしました。「さあ、バスに乗って！」と何回言っても互いに別れ難く、いつまでも別れを惜しんでいた姿が印象的でした。

日本占領時期死難人民記念碑で千羽鶴と花を供え、マーライオンパーク、リトルインディアやチャイナタウン、セントーサ島を回り、ホームステイ（2泊3日）をした盛沢山の研修旅行最終日、シンガポールになごり惜しみながら、チャンギ空港に着くと、多くのホストファミリー、そして、YuHuaの生徒たちが見送りに来てくれました。「わあ、可愛い！」思わぬ贈り物に大喜び。写真を撮りあう中、泣き出す女生徒たちが出てきました。誰ひとりとしてその輪から離れたり、早く空港内に入りお土産を買いたいと言う生徒はいず、むしろ飛行機に乗ってから「先生、沢山（別れの）時間をとってくれてありがとう」という生徒もいました。

「先生、eメールの授業、まだ続けるよねえ。」「勿論よ。」「よかった！YuHuaの生徒と連絡とりあえるね。」帰国後のeメールの授業では、全員の生徒がPCをみつめ、送られて来るeメールや写真に歓喜の声があがっています。また、ほとんどの生徒は携帯電話を持っているので、携帯メールでもeメール交流を続けています。「先生、この英語、わからへんねんけど。」という質問も増えています。



研修旅行前と生徒たちは確実に変わっています。もっとシンガポールの友達と交流をしたいという思いは、実際シンガポールで出会い、同じ時を過ごし、一生懸命話そうとし、コミュニケーションできたからこそ、出てきたものだと思います。チャイニーズだとか、マ



レーだとか、インドアだとか、シンガポール人だとかという境を越え、友達としてこれからも仲良くしていきたいというものだと思います。友達と話をするのは当たり前、それがたまたま海外の人で英語を使わなければいけない、英語は苦手だけど、やっぱり話をしたい！コミュニケーションというのは、本来そういうものではないでしょうか？チャンギ空港で私が撮影した写真を見ると、涙顔の日本の女の子がトドンをかぶった可愛い女の子と写っている写真、様々な肌の色の青少年がじゃれあっている中に、我がクラスの男子生徒も混じっているという写真があります。そういう写真を見ていると、語学教育以上に大切なものを感じます。いえ、語学教育というのは、そういう大切なものを含んでいるものなのでしょう。教室の中では頭ではわかっているけれど、生徒たちに十分伝えられなかったものが、ここにはある、なんだか、生徒たちから教えてもらったような気がしました。

註1：本来は「リアル」という言葉は形容詞なので「リアルの威力」という言い方はしないけれど、塚本さんはあえてこの造語を作って原稿を書くことで、リアリティのあるコミュニケーション活動がいかにか効果的か、そういう活動を大切にすることこそ語学教育では必要なのではないかというメッセージを伝えようとされているのではないかと、私は考えています。その意味を尊重し、私も「リアルの威力」をタイトルに使わせて頂くことにしました。

チョンゲチョンの新たな流れ

塚本美紀



10月に完成したソウルを中心を流れる清溪川

11月の最後の週末、ECAP Korea 2004とECAP Osaka 2005に参加して下さったリー・ヤンカプさんの案内で清溪川を歩いている。清溪川は、仁寺洞や東大門に近いソウルの中心部に新しくできた人工の川である。現地では「チャンゲチャン」と呼ばれている。もともとの地を流れていた川は都市の発展に伴い汚染されたため、覆いかぶされたり、高架道路が作られていたりしていたのだが、数年前、その高架道路が老朽化で取り壊されることになったので、もともとの川の姿を取り戻すべく整備され、今年10月に完成したばかりだそうだ。緑の散歩道が整備され、多くの家族連れやカップル、あるいは観光客で賑わっている。都市の真ん中に緑の豊富な水の流れを作ることによって、美しい景観を作るだけでなく、空気の浄化など環境整備にも一役買っているそうだ。

ところで、なぜ私がここにいるのか。それは、テレビ会議を通して交流しているリーさんの学校を訪問して、生徒が書いた手紙を渡したり、日本についての授業をしたり、今後のテレビ会議について話し合ったりするためだ。金曜日の授業を終え、2人の同僚とともに、大韓航空の最終便で福岡空港からインチョン国際空港に向かった。一夜明けた土曜日の朝、月に一度の休日の土曜日というのに、20名近くの生徒が集まってくれた。

リーさんの勤務する学校はソウル市内にある中高一貫の私立の男子校である。集まってくれた生徒は、元気で明るい子供たちだった。やんちゃなだけではなく、先生の言うことにはすぐに従い、日頃から先生に敬意を払っていることがうかがえる。リーさんによると、この地域は昔からある地域で、子供たちに素朴さが残っているようだ。一方、韓国の新しい面を見ることもできた。生徒の一人が、英語をととても流暢に話すので、「ご両親のお仕事の都合か何かで、海外にいたの？」と私が聞くと、「いや、英語の勉強のために、兄貴と一緒に2年間カナダに行かされてたんだ。」とまるでアメリカのティーンエイジャーのような素振りで言った。



日本語の授業で盛り上がる生徒たち 中央はリーさん

リーさんの学校で授業をした後、清溪川に向かった。

遊歩道を歩いているのは、私と二人の同僚、リーさんとそのお嬢さん、今年の ECAP に参加して下さったクさんとそのお嬢さんである。私の同僚はクさんのお宅にホームステイしている。クさんは、川沿いを歩きながら、私たちの写真を何枚も撮ってくれた。「あなたたちが帰るまでに撮影した写真を CD に焼いて渡すわね。」と言った。ECAP に参加したとき、日本側の参加者がそうしてくれたのがとてもありがたかったからだそう。私がホームステイしているのは、今年の ECAP に参加したホンさんだ。ホンさんは、家族の用事があるので、後で合流することになっている。今朝、ホンさんが作ってくれた本格的な韓国式朝食のお陰で、ハードスケジュールでも元気いっぱいである。仕事に子育てに勉強にと忙しいに違いないのに、私たちを温かく受け入れてくださって、本当にありがたいと思う。朝食のテーブルでホンさんが、「大阪でホームステイしたとき、とってもよくしてもらったのよ。」と言ったことを思い出した。



クさんのお嬢さんとリーさんのお嬢さんと一緒に

「e-dream-s の人たちによくしてもらったから。」この短い韓国滞在中、この言葉を何度聞いたかわからない。ECAP に関わっている皆さんのお陰で、私も同僚も韓国の皆さんに温かく迎えてもらい、貴重な経験をすることができたと心から感謝している。

川沿いを歩きながら見上げると、見覚えのあるビルが見える。東大門市場のファッションビルである。この近くの居酒屋で、二人のクオンさんと合流することになっている。一人は、ECAP を始めるにあたって韓国側で準備をしてもらった、ご存知ヤンヒである。もう一人は、今年の ECAP は海外出張に行っていたため参加できなかったが、来年こそはというヘギョンさんである。ヘギョンさんとは初めて会う。友人たちとの再会、そして新しい出会い。e-dream-s が築き始めた「海峡に架ける虹」は、ゆっくりと、けれども、しっかりと確かなものになっていることを実感した。



東大門市場の居酒屋で

※ 今回の韓国訪問の詳細については、近日中に以下のページに掲載する予定ですので、ご覧ください。
http://hibiki.fku.ed.jp/mtp/mtp_index.htmの左側「MTP 応用講座」をクリック

お知らせ

1. <お知らせ> 第21回理事会開催のお知らせ

- ・日 時：2006年1月4日（水）夕食後（19：00頃～を予定）
- ・会 場：神戸ベイシェラトン&タワーズ
神戸市東灘区向洋町中2-13
Tel 078-857-3355
<http://www.sheraton-kobe.co.jp/>
- ・案 件：2005年度中間総括など

編集後記

近所のショッピングモールに行くと、大きな人の流れがあることに気づいた。おもちゃ屋さんへの道である。そういえば、今朝の朝刊にクリスマスプレゼント用の大きなチラシが入っていたことを思い出す。年の瀬ですね。（塚本美紀）